

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」における工程表

申請担当大学名	九州大学
連携大学名	福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学
事業名	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	1. 九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。 2. ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。 3. ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース新規受入れ: 16名(うち医師10名、薬剤師2名、看護師2名、細胞検査士2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)新規受入れ: 85名(うち医師9名、薬剤師18名、看護師25名、その他33名)</li> <li>・シンポジウム・セミナーの実施</li> <li>・ゲノム医療講習会の実施</li> <li>・小児緩和医療講習会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース新規受入れ: 68名(うち医師43名、歯科医師2名、薬剤師4名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)新規受入れ: 89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・シンポジウム、セミナー、講習会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース新規受入れ: 65名(うち医師43名、歯科医師1名、薬剤師2名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)新規受入れ: 89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・シンポジウム、セミナー、講習会の実施</li> <li>・中間外部評価シンポジウム開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース新規受入れ: 68名(うち医師43名、歯科医師2名、薬剤師4名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)新規受入れ: 89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・シンポジウム、セミナー、講習会の実施</li> <li>・履修生による「教育研究成果発表会」開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース新規受入れ: 65名(うち医師43名、歯科医師1名、薬剤師2名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)新規受入れ: 89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・シンポジウム、セミナー、講習会の実施</li> <li>・最終外部評価シンポジウム開催</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催</li> <li>・連携大学共同による研修会実施</li> <li>・国内外医療機関等との連携体制構築に着手</li> <li>・HPの公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催</li> <li>・連携大学共同による研修会実施</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施</li> <li>・他拠点とのリトリート実施</li> <li>・市民公開講座を開催</li> <li>・男女共同参画に係る講演会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催</li> <li>・連携大学共同による研修会実施</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施</li> <li>・市民公開講座を開催</li> <li>・履修生のキャリア形成支援を目的とした「先輩医療人による講演会」開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催</li> <li>・連携大学共同による研修会実施</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施</li> <li>・他拠点とのリトリート実施</li> <li>・市民公開講座を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催</li> <li>・連携大学共同による研修会実施</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施</li> <li>・市民公開講座を開催</li> </ul>

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)修了者数:85名(うち医師9名、薬剤師18名、看護師25名、その他33名)</li> <li>・本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:24回、1,170名</li> <li>・ゲノム医療講習会の実施:30名</li> <li>・小児緩和医療講習会の実施:30名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース修了者数:3名(うち医師1名、看護師2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)修了者数:89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:22回、950名</li> <li>・講習会の実施:2回、30名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース修了者数:20名(うち医師1名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)修了者数:89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・資格取得者8名(外科専門医3名、臨床遺伝専門医1名、がん専門看護師4名)</li> <li>・本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:23回、1000名</li> <li>・講習会の実施:2回、30名</li> <li>・中間外部評価シンポジウム開催:12月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース修了者数:32名(うち医師11名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名、薬剤師2名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)修了者数:89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・資格取得者15名(外科専門医8名、臨床遺伝専門医1名、高度実践看護師2名、がん専門看護師4名)</li> <li>・本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:21回、950名</li> <li>・講習会の実施:2回、30名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムコース修了者数:68名(うち医師43名、歯科医師2名、看護師9名、医学物理士8名、細胞検査士2名、薬剤師4名)</li> <li>・教育プログラムコース(インテンシブ)修了者数:89名(うち医師9名、薬剤師20名、看護師25名、その他35名)</li> <li>・資格取得者:41名(がん及び緩和治療関係専門医2名、外科専門医10名、がん治療認定医7名、臨床遺伝専門医1名、高度実践看護師2名、がん専門看護師4名、放射線看護師専門看護師3名、がん薬物療法専門医12名)</li> <li>・本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:22回、1020名</li> <li>・講習会の実施:2回、30名</li> <li>・最終外部評価シンポジウム開催:3月</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催:9月</li> <li>・県民・市民公開講座開催:9月、12月、1月</li> <li>・長崎大学がんプロ記念講演会:2月</li> <li>・連携大学共同による研修会実施:2月</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施:韓国・3名</li> <li>・国内外医療機関等との連携体制構築に着手</li> <li>・HP公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催:9月、3月</li> <li>・連携大学共同による研修会実施:2月</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施:米国・2名</li> <li>・他拠点とのリトリート実施:5月、東北大学</li> <li>・県民・市民公開講座開催:9月、12月、1月</li> <li>・長崎大学がんプロ記念講演会:2月</li> <li>・男女共同参画に係る講演会を開催:10月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催:9月、3月</li> <li>・連携大学共同による研修会実施:2月</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施:米国・2名</li> <li>・県民・市民公開講座開催:9月、12月、1月</li> <li>・長崎大学がんプロ記念講演会:2月</li> <li>・履修生のキャリア形成支援を目的とした「先輩医療人による講演会」開催:10月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催:9月、3月</li> <li>・連携大学共同による研修会実施:2月</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施:米国、2名</li> <li>・他拠点とのリトリート実施:5月、東北大学</li> <li>・県民・市民公開講座開催:9月、12月、1月</li> <li>・長崎大学がんプロ記念講演会:2月</li> <li>・履修生による教育研究成果発表会:12月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営推進協議会(仮称)開催:9月、3月</li> <li>・連携大学共同による研修会実施:2月</li> <li>・海外医療機関への訪問研修実施:米国、2名</li> <li>・県民・市民公開講座開催:9月、12月、1月</li> <li>・長崎大学がんプロ記念講演会:2月</li> </ul>
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの			大学院生のゲノム医療に関する意識の向上(アンケート調査等)		大学院生のゲノム医療に関する意識の向上(アンケート調査等)
	定性的なもの	九州がんプロ参加校の教育・研究・社会活動としての実績	九州がんプロ参加校の教育・研究・社会活動としての実績	九州がんプロ参加校の教育・研究・社会活動としての実績 中間外部評価、改善システム構築	九州がんプロ参加校の教育・研究・社会活動としての実績	九州がんプロ参加校の教育・研究・社会活動としての実績 外部評価、改善システム構築

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	地域により3つのエリアに分け、それぞれのエリアに拠点校を置いて、各拠点校がそれぞれのエリアのコーディネーターの教員と連携して事業を推進し、主幹校である九州大学が全体を総括して事業を推進する体制を整える。各大学の補助期間終了後は自大学において予算を確保し本プランで新設したコースを維持し事業を継続する予定としている。また補助期間中より「事業運営推進協議会」(仮称)において、事業継続のための具体的な検討を行う。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	工程表に基づき、毎年、事業の自己点検・進捗管理を行うとともに、3年目に中間外部評価シンポジウムを開催して、中間評価に基づき、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	九州大学内に本プラン事務局を設置し、本プランに係るHPを公開して情報発信するとともに、本プランが主催・共催する講演会、市民公開講座などで事業成果を広く共有し社会に発信する。また、シンポジウムを開催して、取組みや成果を情報発信する。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
連携大学との教育・研究の情報共有方法を明確にする必要がある。	「事業運営推進協議会(仮称)」を1年目に設置し、2年目以降は原則として年2回開催して連携大学間で教育・研究の情報共有を図る。また、TVカンファレンスや合同講習会を利用して限られた教育リソースを効率的に共有すると共に、毎年、連携大学共同の研修会を実施する。更に、本プランコース履修生の修了後、所属先でのがん診療、研究における活動を調査し、その情報を連携大学間で共有することで事業成果を広く活用する。
拠点間リトリートの開催は有用と思われるが、トピックによっては医療事情や社会事情が異なるので、地域性を考慮し、相互にメリットが得られるよう工夫が必要である。	それぞれの拠点が実施している特色のある活動に関する情報を、相互に提供しあえるように拠点間リトリートの内容を検討する。例えばゲノム医療に関しては、すでに国内最大規模で稼働している東北メガバンクの情報を東北の拠点より提供頂き、がん教育に関する国際連携拠点については韓国ソウルのアサン医療センターにて継続的に実習を行っている九州の拠点が情報提供することを計画している。
事業の実施体制において、実施に関わる教員数が著しく少ない。	連携大学の医学研究科等の長が各大学における事業責任者となり、九州大学大学院医学研究院長がこれを統括する。各大学には実務担当のコーディネーター教員を1名置き、九州大学の幹事コーディネーター教員がこれを統括する。事業の実施にあたっては、各大学において、実務担当のコーディネーターに協力して、がん関連の他の教員等もコース運営、事業実施に参画する体制をとる。
ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。	ライフステージ毎に異なる、多様な患者・家族支援を提供できるよう複数の医療機関、および医療機関以外の他団体の専門職が参加するカンファレンスを開催し、がんプロ学生、教員も含めて先駆的な対応策の実施を検討する。